

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300036		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム文の里(2階)		
所在地	大阪市阿倍野区文の里4-21-23		
自己評価作成日	平成26年6月5日	評価結果市町村受理日	平成26年9月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ただいま！」と声をする、「おかえり！」と応える、そんなホームを作りたく。第二の理念「楽しく、笑ってほっとして、思い出いっぱいつくろうね」をかかげ取り組んでいます。個々の状態も日々変化中、今求められていることは何なのかを(入居者様)さぐり共に分かち合い、歩んでいけるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2792300036-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2792300036-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年8月12日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「笑顔で楽しい思い出づくり」を目標にしたホーム理念を掲げ、利用者のやりたい事や行きたい場所への外出を実現するために個別支援に力を入れています。日々の会話の中で利用者から聞かれた希望につながる言葉や表情を見逃すことなく、一人ひとりが真に望んでいる事は何なのかを職員間で話し合い把握し、支援内容を検討しながらチームケアで取り組んでいます。利用者や職員、又職員間の関係性は良好で信頼関係が保たれ笑顔が多く、終末期ケアでは家族のように寄り添い、職員講習や医療連携を密にし、環境を整備して全員で前向きに取り組んでいます。介護計画の実践状況が把握しやすいように書式を工夫したり、職員が意見を表明しやすい形式の会議を新しく取り入れるなど、より良いサービスと運営に繋がるよう努めています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	第二の理念を掲げて、スタッフ全員が理念を共有し実践しています。(楽しく、笑ってほっとして、思いでいっぱい作ろうね)	法人の理念を基に職員一人ひとりがホームの目標を考え、それぞれの言葉をまとめてスローガンとし、タペストリーにして玄関の正面に飾っています。職員が出勤時に目にする事で理念を意識してケアに取り組み、会議では理念に沿った支援になっているかを振り返り、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店を利用することでなじみの関係づくりや散歩の際に御近所の方とお話をする。	地域包括支援センターより、地域の催しの情報を知らせてもらっています。商店街の祭りに参加したり、散歩や喫茶店に出掛けるなどして地域の方と顔なじみになっています。また、近隣の保育園児とも定期的に交流を持っています。またホームの存在を知ってもらうために、広報を配布したり、1階でカフェを開いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でグループホーム文の里という施設がある事が認知されていて、認知症の人を抱える家族の相談を受けたり、4月より毎月第2(木)カフェふうみんを再開。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議をひらき、意見をサービスに活かしています。	会議は町会代表、福祉コーディネーター、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催されています。ホームの状況報告に加え、運営や職員育成について参加者にアドバイスをもらったり、地域の催しや研修情報を得るなど地域交流につながる会議となっています。会議内容と開催日については、家族全員に便りで知らせています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	専門の担当者が日頃から市町村との連絡を密にとっています。	行政からは研修案内が届き、可能な限り参加するようにしています。区の事業所連絡会に市の担当者が参加しており、情報交換がなされ、法人と役所との連絡状況は法人担当者から報告があり、内容を把握しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する、資料を皆で学習しています。また、日々の業務の中でも自分達の行っている事が、身体拘束になっていないかを確認し合っています。	身体拘束についての勉強会を行い、資料を担当職員が作成し、弊害や適切なケアについて話し合いながら周知しています。言葉の拘束についても事例を挙げて振り返る機会を設けています。現在エレベーターは防犯上ロック式になっていますが、常時開放を目標に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する講演に参加したり勉強会を開いています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人のいらっしゃる入居者様とは連絡を密にとり、生活の質を高めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問に思われるご家族とは個別に対応し、理解していただくよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に何回か家族会を設け、意見交換をし、ケアに反映させています。	年2回開催の家族会は、行事と兼ねて行い、参加しやすく意見が出し易い雰囲気作りに配慮しています。また面会時や介護計画更新時に状況を知らせ希望や意向を聴いています。温泉旅行についての希望が挙がり、会議で周知し、実践に結びつけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議を開き、意見を吸い上げ、ケアに反映させています。	職員会議や日頃のケアの中で、職員から意見や提案が多く出されています。管理者は今までの会議形態を変え、テーマを決めたグループワーク形式を導入し、職員の意見を多く引き出せるよう工夫しています。年2回のヒアリングの機会を設け個々の意見や提案を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務自己評定や管理者との日頃からのコミュニケーションを通じて職員の意見や要望を受けとめるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会(2回)に職員が積極的に参加出来るよう、学習内容も検討して決めている。また、職員が外部の研修で学んできた事を勉強会で他の職員に伝える事でスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに参加し、勉強会を通じて関係づくりをすすめています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接をおこない、御本人の生活歴等の情報収集に努め、不安や要望にできるかぎりこたえるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接をおこない、ご家族の困り事や不安や要望にできるかぎりこたえるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提に考えるのではなく、その方に必要なサービスを提案させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	つねに家庭的な雰囲気の中でスタッフは「自分の家族だったら」「自分がその立場だったら」と常に考えケアを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族とコミュニケーションをとり、ご家族をまじえて外出したり、記念日を共にされたりして家族のきずなを大切にしたいケアを考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・生徒様が定期的に来苑。行きつけのお店や商店街をに散歩がてら顔が出せる様にしています。	本人や家族から行きつけの店や理美容店を聞いて付き添ったり、希望を聞いて家族に代わって墓参りに車で出掛けました事もあります。手作りポストを作って葉書を書いて投函してもらうなど、利用者の思い出を大切に、会話の中で希望の場所があればできるだけだけ訪れ、懐かしんでもらえるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きな家族としてとらえ、喜怒哀楽をまじえた生活を支援しています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談、助言を必要に応じて、提供できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で御本人の希望を聞き逃さずその人らしい生活をおくっていただけるよう支援しています。	利用者との日々の会話の中で聞き取った好みや希望、新しい発見、表情の変化等をケース記録に記載し、職員間で共有して把握しています。常に意向に添った支援になるよう、話された言葉を受け止めるとともに、その人の本意であるのかなども話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会にこられたご家族にお聞きしたり、好みや若かった頃のことなどお話していただく中で、ご本人が暮らして来られた生活		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に日々の状況を記載し、スタッフ間で情報交換をし検討し、ケアにいかしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス内容の見直しするため関係者を交えて話し合いをもち、介護計画を作成しています。	本人・家族から聞いた暮らしの希望や、職員の意見、主治医の指示等を参照に介護計画を立てています。3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月ごとに担当者会議を開いて見直しています。実践状況を記載する票は、色分けして分かり易い形式を工夫し、職員全員が計画を意識しながら支援し、現状に合っているかを話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には見出しをつけることでケアに活用できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いを即、実行し、外出したり、美容院にいったりしています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でも行事に積極的に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のドクターと密に連絡をとりあい、必要であれば専門医への受診などの支援もいただいています。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いています。協力医療機関以外の通院は家族対応が基本ですが、困難な場合は職員が付き付き添っています。協力医の往診は月1～2回あり、夜間や緊急時に対応可能となっています。往診の状況は定期的な個人便りに項目を設け、家族に分かり易く伝えています。また、週1回訪問歯科の受診も支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護にて、異常や健康チェックを伝え、ドクターに報告し、指示をあおいでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療関係者と連携を図り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医とご家族との面談やスタッフとご家族との面談でrターミナルにむけて連携調整をおこない、ご家族が納得できるターミナルケアに取り組んでいます。	入居時にホームの終末期支援の方針について家族に説明し、同意をもらっています。ホームとして希望があれば、往診医、看護師、家族の協力のもと終末期支援を行う方針であり、経験のない職員には医師から講習を受けたうえで支援しています。実際の看取りの際は、職員も家族のように関わり経験から学ぶ事も多く、方針を理解し体制を整えて取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて救急時の対応を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との訓練や火災などの避難時の対応など話し合っています。	年2回の消防訓練の内、1回は消防署立ち合いの下行っています。昼夜を想定し避難経路や消火器の使用法を身につけ、待機場所や避難方法の指導を受けています。訓練の開催は運営推進会議で案内し報告しています。	協力体制の構築に向け、訓練の開催を近隣に知らせ町会役員や地域の方々に見学してもらったり、運営推進会議で地域の災害対策について話し合われてはいかがでしょうか。

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重しながら他人行儀になるのではなく、親しみをもてる言葉かけに努めています。	全体会議で接遇について話し合い、プライバシーと尊厳について厳守するよう努めています。日々の業務の中で呼び名や言葉遣いについて不適切であれば、管理者が注意しています。排泄及び入浴介助時や居室ドアの開閉についてはプライバシーを意識した対応に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いを表現しやすい環境づくりにつとめています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たとえば、入浴の困難な方には無理強いせず、入浴日以外でも対応したりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に定期的にお連れしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加していただいたり、できることをしてもらっています。	業者の献立で調理していますが、検食簿を付け希望や変更を伝えています。利用者の食べたい物の声を聞いたり、行事の際にはメニューを変更して買い物に出かけて作っています。調理、片づけに参加できる利用者には携わってもらい、家庭菜園の野菜を使ったり、手作りおやつ、外食も随時取り入れ、食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	固形物をソフト食やミキサ食にて提供したり、水分はゼリーやジュースなどいろいろ工夫して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。必要に応じて、歯科受診をして頂いています。		

グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にリハビリパンツを使用せず、日中は布のパンツで尿意を感じてもらおうよう努力しています。また排泄が言葉として表現できなくても合図をみながさず、さりげなく声をかけています。	トイレでの排泄を基本とし、尿意のサインを見逃さないよう配慮して個々のタイミングに合わせトイレ誘導を行っています。一人ひとりの排泄パターンや水分量を把握しながら支援を継続することで、自立に向けた下着形態に変更にした利用者もいます。各居室にトイレが備わっている為、夜のトイレ誘導も無理のない支援に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトを頼んだり、お腹をマッサージしたり運動などを積極的におこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日以外でも希望に応じて対応しています。	入浴は週3回、朝から夕方5時ごろまで準備ができており、希望があれば毎日でも入浴可能です。湯を毎回入れ替え、職員とゆっくり会話をしながら入ってもらい、柚子湯やしょうぶ湯等季節風呂も楽しんでもらっています。入浴が好まない利用者には音楽をかけたり、対応の職員を変えて支援しています。浴室はリフト付きで重度になっても対応可能な設備となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	つかれた時や夜間睡眠が少ない時は居室で休んでいただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局に居宅管理指導にはいっていただき、薬についての知識を指導していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店にでかけたり、ビールが好きな方は飲んでいただいたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に外出企画を計画、個別の希望にあわせたプランにしています。	日常的に近隣への散歩や駅前への買い物、外食等に出掛けています。歩行が困難な方も車椅子やドライブで外出しています。利用者の行きたい場所を聞いて個別の外出支援にも力を注ぎ、花見や遠出の外出、一泊旅行にも出掛けています。	



グループホーム文の里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際にレジにて支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自宅に電話されたり、お手紙をだされたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の装飾に季節感をもりこみ、行事の写真などつねに掲示しています。	明るく広いリビングにはゆったりしたソファが備わり、それぞれに寛げるスペースが設けられています。利用者の状況でテーブル配置を変更したり、季節により飾り付けを変えています。温湿度、換気等、空調管理にも留意し、場面により音楽を変えて居心地の良い空間づくりに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座りやすいソファをもうけ、入居者様どうして語らうことのできる場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやペットなど使い慣れたものをもちこんでいただいています。	居室には利用者の使い慣れた家具を持ち込んでもらい、配置は住んでいた家と同じにするなど本人、家族と相談しながら設置しています。家族の写真やぬいぐるみ、ラジオ、書斎机等を持ち込み、本人が安心して生活できるよう配慮しています。各居室にトイレと洗面台が備わっており、プライバシーが確保されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーややすりなど、環境に配慮しています。		